

よかところ通信

2015年10月号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太&愛梨

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井 587

Tel&Fax: 0967-62-3730

E-mail: mail@o2farm.net

O2FarmWeb: www.o2farm.net

阿蘇の秋はあっという間に過ぎてしまいます。今朝の最低気温は 3 度。既に初冬と言ってもいい季節になってしまいました。皆さまは食欲の秋を楽しまれていますでしょうか。

天候のため例年よりもスタートが遅れた今年の稲刈り。コンバインを持っていない方から頼まれる稲刈りは今現在も続いています。稲刈りが終わるとすぐにワラも集めました。牛のエサになります。今年は県内の収穫量が「やや不良」だったためか、あまり皆さんの表情が明るくありません。TPP 大筋合意も、どのように影響してくるのかはまだ分かりませんが、あまり明るい話題でないことだけは確かなのでしょう。



私たちは不安じゃないかと言われたら嘘になりますが、不安ばかり募らせても解決しません。そこで、そんな農村に明るい話題を！ということで、連休の初日にイベントを実施しました。大成功に終わったこのイベントについて、少し詳しくご報告したいと思います。

昨春から私が代表をつとめることになった、NPO法人「田舎のヒロインズ」という団体があります。90年代に牛肉やオレンジの輸入自由化という局面を迎えた時、「農産物の価格だけで比較されたくない、農家はもっと色々な役割を果たしていることを知ってもらおう。」という思いで女性農家たちが立ち上げた全国的なネットワークです。設立から20年。バリバリ現役だった女性農家さんたちの大半は既に還暦を越え、経営を継承していらっしゃる方も多くなったため、

組織の再編成をすることになりました。なんと役員全員を現役農家へと世代交代。住んでいる場所も作っている作物もバラバラで、年に数回しか会えない中、自分たちのすべき活動がようやく見えてきた今年。柱となる思いは「農家だから明るい」社会を。私がずっと力を注いで来た再生可能なエネルギーも「明るい」につながるわけですが、そのトピックはあまり一般受けしないと言われたことから（苦笑）、まずは農家女性自身が明るい存在になるため、ファッションやビューティーから始めることにしたのです。



どこに住んでいても、何歳になっても、美しくいたいという女性の想いを形に。と同時に、私たち農家が守っている風景の価値を認識してもらおう、という狙いでした。風景の写真をプリントした布地で服をつくったのです。このアイディアが意外なほどに反響が良く、企業からは協賛金だけでなく、企画や技術支援の申し出も。プロの皆さんにお力添えいただいたおかげで、完成度の高いショーになったのだと思います。写真もプロなら、モデルさんも、設営も司会も音楽もみんなプロの手によるもの。そこに、学生さんや近所のおばさま達がデザインや縫製に加わってくれました。



ショーの前日に、プロのモデルさんからウォーキングの指導を受けた女性農家の皆さん。姿勢を正してシャンとして。当日は美容師さんたちがヘアメイクをしてくれました。南阿蘇村にある東海大学農学部の子学生さんや、高校で農業の勉強をしている生徒さん、そして地元の子供たちもモデルとして参加。最年少は生後2か月の里咲でした。風景をプリントしたベビー服を用意し、兄に抱っこされての登場。泣かずにおとなしく抱っこされていてくれました。3人息子も登場したのですが、出番が終わった途端にとりの畑で「いつもの遊び」をはじめ、おニューのTシャツが泥だらけ。まあ、泥だらけで遊んでいる彼らの写真をプリントしたTシャツなので、正しい姿なのかもしれませんが（笑）。人前に出たがらない耕太の代わりに、姿が写ったTシャツを着て研修生エースケが登場。私は主催者挨拶の時に、阿蘇の草原とあか牛をプリントしたスカートをはきました。



とにかく、関わった全ての方が笑顔だったことが何よりでした。実は私の「本当の目的」は、工事によって田畑の形が変わってしまう前に、不揃いな田んぼのままの姿を多くのメディアによって記録&発信すること。だから別にコンサートだろうがお祭りだろうが良かったのですが、結果的にこのファッションショーは多世代の地域住民の皆さんに関わって頂くことができ、またその様子をなんとミラノ万博でも紹介できることになり、期待以上のアピールができそうです！

翌日。田んぼからは特設ステージがなくなり、おばちゃん達は野良着を着、耕太は稲刈りに、エースケは草切りに。まるで何事もなかったかのような日常に戻りましたが、そんな「日常」がいつもより愛おしく思えたのは、「ハレの日」があったからなのでしょう。自分の姿が載っている新聞を眺めるおばちゃん達のはにかんだ笑顔が最高でした。



農作業としては、イノシシ除けに張り巡らせていた電柵を撤去したり、畔や土手の草を切って田んぼを軽く耕したり。年内いっぱいくらいは何だかんだやるがあります。年が明けると本格的な「農閑期」が訪れますが、今年はちょっとした調査を頼まれていたり、NPOの仕事がいろいろ入っていたりして、農閑期の方がむしろ忙しいかもしれません。でもハードワークを乗り切った耕太には、体をしっかり休めてもらい、笑ったり声を出したりと反応が出てきた愛娘との時間を楽しんでもらいたいと思います。どうぞ皆さま季節の変わり目に風邪などひかれませんよう。

